

ふるい ようこ
古井 陽子 さん(下川島)

「知りたい」をきっかけに学び、伝え続けていくことが郷土愛の醸成につながると実感！



シンポジウムの様子

川島まちづくり
プロジェクト 水木会長

鬼怒川沿いに位置する川島地区。縄文・弥生時代の遺構や女方古墳群を有し、江戸時代以降には水運の拠点として栄えた同地区で、文化財をとおしてまちづくりを進める市民団体「川島まちづくりプロジェクト」を取材しました。

前身は2つのプロジェクト

会長の水木洋二さんは「設立は今年の2月ですが、5年前に発足した『おかげりなさい人面土器プロジェクト』がベース。同地区内の女方遺跡から出土した顔面付壺型土器のレプリカを川島駅前に設置し、小中高生を中心に愛称と川柳を募集しました。ぴったりの愛称を付けようと土

器について調べることで、自然と郷土史が学べる企画が好評でした」と話してくれました。

さらに2年後『川島河岸銅版画プロジェクト』が始動。江戸時代から大正時代に川島を繁栄させた鬼怒川の河岸における物資の積み下ろしや保管、船の発着所を描いた銅版画をもとに、水運の興廃を伝える案内板を川島駅前に設置しました。除幕式にあわせて開催したシンポジウムは、川島の歴史を紐解く有意義な場となつたそうです。

二千年の時 ロマンの追及

2つのプロジェクトを基に地域活性化を図ろうと設立された同団体。発起人の一人で筑西ふるさと大使も務める並木勝利さんは「はじめは川

取材を終えて

取材当日は、川島小学校2年生のみで、並木勝利さんは「はじめては川島駅前で人面土器についての説明をしていました。子どもたちのワクワクした表情で話を聞く姿に、同団体の活動に込めた想いが実を結んでいたことを感じました。12月には川島小学校6年生を対象に、土器作り体験も企画しているとのことです。

「まちづくりは人づくり」をモットーに活動するみなさんの輪が地域に広がっています。

【問】川島まちづくりプロジェクト

会長 水木

☎ 090-8944-0418



知りたい 学びたい
伝えたいの好循環



川島まちづくりプロジェクト

二千年前のロマンを伝える
並木さん「まち探検」
当日の様子